



「嬉野医療センター全景」

### 患者さんの権利

- |                             |                                  |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利      | 5 常に人としての尊厳を守られる権利               |
| 2 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利 | 6 医療上の苦情を申し立てる権利                 |
| 3 治療法を自由に選択し、決定する権利         | 7 繼続して一貫した医療を受ける権利               |
| 4 プライバシーが守られる権利             | 8 生活の質 (QOL) や生活背景に配慮された医療を受ける権利 |

### このお見出しあり

- ② 年頭のあいさつ
- ③ 救命救急センターが11月14日より運用を開始いたしました
- ④ 救命救急センター建築整備の竣工なる
- ⑤ 当院にドクターヘリが飛来する
- ⑥ 第12回地域母子保健セミナーの活動報告

- ⑦ 『市民公開講座』を開催しました
- ⑧ 毎年恒例！糖尿病食事会♪
- ⑨ 平成23年度感染管理エキスパートナース研修を開催しました
- ⑩ 感染管理エキスパートナース研修を受講して
- ⑪ 外来診療担当医表／編集後記



# 年頭のあいさつ

院長 古賀満明

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、東日本大震災とそれに続く原発事故という未曾有の大災害に見舞われました。大自然に対する人間の無力さとともに、止めることのできない科学の進歩の危うさを垣間見る出来事となりました。一方、被災者の苦難に立ち向かう姿からは、改めて人間の強さを知るとともに、世界の国々からの援助や励ましからは、援助国・被援助国とは定まったものではなく、相互補完の関係にあることを改めて感じさせられました。豊かさは日本を含めた先進国から陰りが見え始め、BRICS、さらにはアフリカなどの開発途上国とされる国々へ移っています。昨年の夏、約10年ぶりでケニアを訪問し、その発展ぶりに驚かされました。ナイロビ市内の車の多さ、しかも使い古した中古車は完全に姿を消し、人々は携帯電話で明るく声高に喋りながら街の中を歩いていました。数十年後には、どこまで発展しているか想像もつきません。少なくとも援助国対被援助国、先進国対開発途上国といった2極化の考え方はなくなり、多極化のなかで協調して日本を世界を守っていくことになるでしょう。その中で、日本がどのように行動していくのか、いけるのか不安を抱くのは私だけではないでしょう。

当院における昨年の最大の事業は、ヘリポートを併設した救命救急センターの稼働でした。佐賀県では、久留米大学病院と国立病院機構長崎医療センターに就航しているドクターヘリを福岡・長崎両県と共同運航によりカバーしています。ヘリポートの建設は、せめて受け入れ態勢を整えたいとの思いからです。開設後、週1回のペースで運用され、南部医療圏を中心に西部医療圏と長崎県の一部を含む、より広域での救急医療の最終拠点を担っています。これでH16年の独立行政法人化に際して、急性期型地域中核病院を目指した一連の整備を完了しました。今年からは、がん及び難治性疾患に対する機能強化と人材の育成に取り組みたいと考えています。今年は、まず研修医宿舎の建設と放射線治療機器であるリニアックの更新を計画しています。これは佐賀県の地域医療再生基金を使っての事業で、県からの初めての大型支援であり、何よりも佐賀県の医療を担う病院として位置付けられたことに喜びと責任を感じています。

今回の大災害では、被災者だけでなく全国民が忘れかけられていた家族や友人との「絆」の大切さが再認識されることになりました。家族の絆を再認識すること自体、我が国の現状を象徴しているように感じてなりません。近年、際限なく個人の豊かさを追い求めるばかりに、個人が豊かさを得る代わりに、他人だけでなく家族の絆まで喪失していったのでしょうか。忘れかけていただけなら、まだ大丈夫でしょう。

今年こそは、「希望」が持てる年に、「希望」が持てる国になってくれればと思います。

まず身近なところで職員一人一人がより良い病院になれるよう、真摯に考え行動することが、病院の将来、地域の将来に対する「希望」へ繋がると信じます。

2012年が「希望」の元年になるよう、皆さんと共に頑張りましょう。





## 救命救急センターが11月14日より運用を開始いたしました

救急センター医長 藤原紳祐

嬉野医療センターでは、平成23年11月14日より地域救命救急センターの運用を開始いたしました。通常の救命救急センターは、人口百万人に一ヵ所を目安に整備、設置されていますが、「地域救命救急センター」の指定基準は、最寄りの救命救急センターへのアクセスに概ね60分以上の時間を要する地域であり、10床以上20床未満の専用病床を有し、24時間体制で重症及び複数の診療科領域に渡るすべての重篤な救急患者に対する高度な診療機能を有することとされています。

当院はこれまで入院や手術が必要な重症患者を受け入れる二次救急告知病院でした。県内の重篤患者受け入れは、県立病院好生館や佐賀大学附属病院、地域救命救急センターのある唐津赤十字病院が三次対応施設となっていましたが、西部地区には指定病院がなく当院が実質、その対応を行っていました。今回、当院が地域救命救急センターの指定を受け、佐賀県西部の三次救急医療対応施設と正式に認められたことになります。

10床の専用ベッドを有し、地域救命センターとして新たなスタートを切りました。今まで限られたス



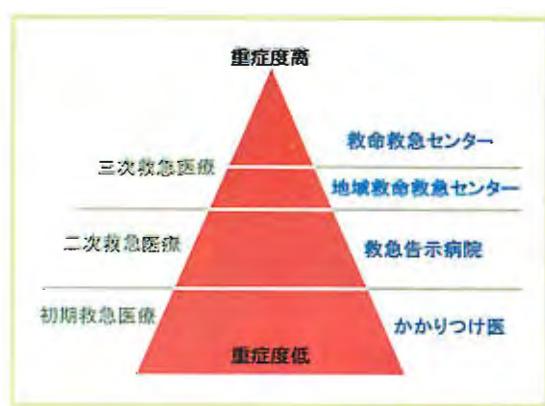
救命救急センター病棟

ペースで集中治療を行ってきましたが、新たな病棟で余裕を持った空間の中で集中治療管理を提供できています。救急専従医は2名で以前と変化はありませんが、他科の先生や多職種のコメディカルとなお一層の連携を構築し、質の高い医療を提供できるように努めます。

同時に病院玄関前に専用ヘリポートも新たに設置されました。佐賀県は平成21年10月から長崎県ドクターへリと提携を結んでいますが、昨年4月からドクターへリ要請例が急増しており、その約3分の2が当院へ搬送されています。今まで近くのみゆき公園にヘリが着陸し、さらに救急車を使って当院へ運ばれていました。現在はダイレクトに病院の救急外来へ搬送が可能になっており、緊急手術、緊急処置、その後の集中治療管理とシームレスな治療が可能となっています。ヘリポート開設から約1か月で既に5件のドクターへリ症例の対応を行っており、重症患者の救命に寄与できると考えています。



完成した救命救急センター外観



又、病院にヘリポートが設置されていることは、災害拠点病院としての一つの要件となっており、今後広域災害や大規模地震の際にも、適切な医療が提供できるようにDMATチームの編成、災害拠点病院への指定など災害に強い病院体制を作っていくたいと思っています。

救急救命士や救急隊員との連携を図ることは、地域の救急医療体制上、非常に重要です。今後は、搬

送症例に対する事後検証を行い、症例検討会や講習会などを通じて近隣の消防や医師会の皆様方との交流を積極的に行いたいと思います。救急医療は、その時の社会情勢や周囲の状況により常に変化していくます、皆様方のご意見を頂き、柔軟に変化しながら救命救急センターの運営を行い、救急医療の質の確保に努めていく予定です。よろしくお願いします。



## 救命救急センター建築整備の竣工なる

企画課長 大木和博

救命救急センターが完成しました。23年2月に契約を締結し3月14日に起工式（地鎮祭）を行い工事が始まりました。当初9月末の竣工予定でしたが東日本大震災の影響で、設置予定のエレベーターと電気の幹線部品の納入が遅れ（工場が東北地方であったため）、11月15日の完成予定となりました。

工事が始まって2ヶ月後、救命救急センター運用プロジェクト会議が設置され、第1回目の会議を5月24日に開催し、停電作業・断水作業・患者の移動等工事の進捗に対して発生する様々な状況への対応、また救命救急センターの運用、ドクターヘリの受入等について協議していくこととなりました。工事期間中5回開催され、最後は11月4日に運用開始に向けての最終的な確認調整を行って会議終了となりました。工事期間中の毎週金曜日の業者との工程会議では、事務部長・企画課長・業務班長の3名で参加し、よりよい救命センターを作るために議論を重ねました。



完成したヘリポートを地上から見上げる

病棟について簡単に説明します。1階は、広域災害時また集団感染症発生にも対応できる救急災害センターを設置、そして病棟から離れていて手狭となっていたME機器室を移設しました。2階は救命救急センターを整備し、3階小児科には感染症にも対応できるように陰圧室を整備し、4階は臨床研修・教育を目的としたスキルアップラボと心大血管リハビリテーション室となっています。

一方、ヘリポートは外来救急室前の車庫がある場所に設置することとなり、それに伴い車庫も移動させました。鉄骨単独でのヘリポートは日本で4番目ということです。こちらは、通常の建物と違うため公的機関への手続きで不明のところがあったのですが、関係機関へ照会し地区消防本部と大阪航空局へ期限前に無事届け出を終了することができました。

途中、工事内容について4階のリハビリ室の間仕切り、ME機器室内の出入り口の変更等が発生しましたが、大きな事故もなく工事を進めることができ、10月26日に土木事務所・消防署検査、31日から2日間かけてブロック事務所の竣工検査、11月4日ヘリポート医療法自主検査、6日記念式典、7日ヘリコプターが飛来しての患者受入訓練、9日救命センター医療法検査、とさまざまな手続きを経て14日に救命救急センターオープンとなりました。

工事期間中は建物の使用制限・騒音・振動等で皆様へはご迷惑をおかけしました。ご協力ありがとうございました。



## 当院にドクターヘリが飛来する

管理課長 山邊 治

佐賀県は、自治体独自のドクターヘリの運用が未だ成されていないことから、県東部地域は福岡県の私立久留米大学が所有するドクターヘリがカバーし、当院が所在する県西部地域は、佐賀県と長崎県との協定により長崎医療センターに常駐する長崎県所有のドクターヘリの派遣に頼っている状況にあります。従来、長崎医療センターから出動したドクターヘリは当院から約3km離れた公園に着陸して、そこから救急車で当院まで搬送していました。

平成22年3月1日付で佐賀県知事から救命救急センター設置の要請があり、ドクターヘリ用ヘリポートと共に今年4月からその整備工事に取りかかっていましたが、この度工事が完成し、11月14日（月曜日）から双方同時に運用を開始いたしました。

それに先立ち、11月6日（日曜日）に、佐賀県、嬉野市、大学、医師会、国立病院機構等の関係者を

招いて開設記念式典を開催しました。当日は、長崎医療センターのドクターヘリを運航する神戸市のヒラタ学園のご厚意で、ドクターヘリと同型のヘリコプターのデモンストレーション飛行を計画していましたところ、あいにくの悪天候でデモ飛行は断念しかけましたが、ヘリコプタークルー等の果敢な対応により、濃霧の中、無事1号機がヘリポートに着陸しました。

また、11月7日（月曜日）には長崎医療センターから実物のドクターヘリが飛来し、院内の関係部所が連携して受け入れ訓練を実施しました。フライトドクターからの受け入れ要請から始まり、院内の医療体制の確保、運航管理室からの到着予定時刻の連絡による誘導灯の点灯、離発着時のヘリポート周辺の風圧への警備、救急室への効率的な搬送等、シミュレーションに従い、効果的な訓練が実施できました。



デモ飛行で飛來した1号機



説明を受ける式典来賓



ドクターヘリ受け入れ訓練





ドクターヘリとヘリポート



ドクターヘリの患者搬入口

今回のヘリポートの設置により直接院内にドクターヘリが着陸できるようになり、重篤な症状に対して、より素早い救急医療の対応が可能となりました。

た。職員一同、従来にも増して地域における当院の重要性を認識し、地域住民の更なる期待に応えられるよう引き続き努力していく所存です。



## 第12回地域母子保健セミナーの活動報告

嬉野医療センター 母乳育児推進委員会 青木恒子

平成23年9月14日、第1会議室において「新生児蘇生」をテーマに、当センター小児科の江頭政和先生による講義と演習が行われました。今回は、「新生児救急蘇生ガイドライン2010」に基づく新生児蘇生法で、出生直後の初期蘇生から人工呼吸・胸骨圧迫の一連の講義を受け、その後アルゴリズムに沿ってデモンストレーションをして頂きました。次に5つのグループに分かれ、3人一組で蘇生のトレーニングを行いました。参加者は総数48名（院外参加者22名）、助産師を初め、医師や看護師、薬剤師、保健師、栄養士の方も参加頂き、皆技術をマスターしようと時間を忘れ真剣に取り組まれ、大変有意義

な時間となりました。アンケートでは、「アルゴリズムが変わっていることを知らなかつたので再認識できて良かった。」「Drも一緒になって指導して頂き、実践がより具体的となつた。」「実際行うと、意外に難しく良い経験になった。」「グループ演習は質問しやすくて良かった。」などのご意見を頂きました。初期蘇生は子どもの一生を作成する重要な技術です。これからも繰り返しトレーニングを行い、現場に活かしていきたいと思います。

さて、次回の平成24年3月14日(水)は、「更年期障害」を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。



# 『市民公開講座』を開催しました

管理課長 山邊 治

平成23年12月3日(土)の午後、嬉野市公会堂において『うれしので元気をあなたにーこころ爽やかからだ健やかー』とのテーマで、主催を嬉野市・嬉野医療センター、共催として嬉野町・塩田町両医師会に協力していただき、『市民公開講座』を開催しました。

従来、当院では秋の時期に『健康フェスタ』と称して、広く市民の皆さんに院内を開放して健康啓発事業を行っていましたが、3年前の新型インフルエンザの流行などがあってここ数年は実施することができませんでした。そこで今回は早くから地域医療連携室長の古市整形外科部長を中心に開催を計画していましたが、従来の枠に囚われずにとの方針で市民の方々の健康に、より身近で役立つ内容にしようと、嬉野市公会堂に市民の皆さんにお集まりいただき講演会形式で行うように決定し、実施内容を検討していました。

講演会のスタイルとしては、当初医師会の先生方に、よく診る症例について説明していただこうとも考えましたが、最終的には当院の室屋循環器内科部長と宮園脳神経外科部長に、市民の皆さまが特に気に掛けている重症な症例について講演していただくことにしました。

しかし、よく考えてみると、講演会を実施する側としては自信を持って計画した内容の講演でも、あ

堅い病気の話しだけで果たしてどれだけの市民の皆さんのが心を持って集まるだろうと不安になっていました。そこで考えたのが、著名な人にも同時に講演をしていただき、例えは悪いですがいわゆる“人寄せパンダ”を呼ぼうということになり色々とマネージメント会社の情報を探りましたが、1回の講演に掛かる経費が安価な人でも50～60万円、テレビ等でよく見かける人になると100万円は下らないということで敢えなく断念せざるを得ないところでした。

ところが、そうこうしているうちに嬉野市役所から、佐賀県から交付されている市民向けの健康啓発事業の予算をそのような講演に支出できるという情報が舞い込んできて協議した結果、当院と嬉野市役所との共催で『市民公開講座』を開こうということで話しがトントン拍子に纏まりました。市役所に9月の市議会で補正予算として承認を受けてもらい講師の人選となつた訳ですが、著名な人は既にスケジュールに空きがなく、実施までに時間が短い中でやっと探し当てたのが、昭和48年に「なみだの操」が大ヒットした元「殿様キングス」でバックコーラスを担当していた多田そうべい氏でした。多田さんは「殿様キングス」解散後高校生のご子息を血液の病気で亡くされ、その後骨髄バンクの啓蒙活動の講演に携わられているということで、この企画にも適任者であるとして講演の依頼をしました。

当日は、当院の室屋循環器内科部長が「動脈硬化ってなんなの? 循環器内科の立場から」、宮園脳神経外科部長が「予防が決め手! 脳卒中最前線」という演題で、それぞれ専門医の立場から日常生活で注意しなければならないこと、いざとなったときの対応の仕方など、病態の動画等を交え丁寧に説明し、集まった200人以上の市民はメモを取るなどして熱心に聞き入っていました。

先生方の講演の後は多田そうべい氏の特別講演「大人の奇才屋／生きされている命を大切に」に移り、軽妙な話術の合間にシリアスなテーマを織り込



講演風景

んだ多田さんの講演にも聴衆は吸い込まれ、笑いありホロリとさせる場面もあり、最後は「なみだの操」を来場者と一緒に歌い、印象に残る内容の講演でした。

当院は24年度以降も市民にとって魅力ある情報の発信を続けていく計画ですので、引き続き皆様方のご協力の程よろしくお願ひいたします。

多田そうべい氏特別講演

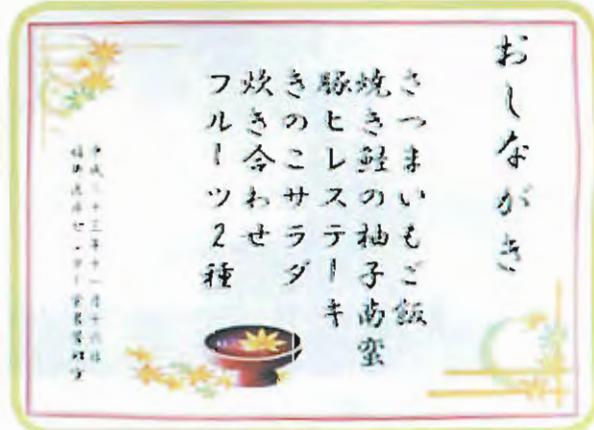


## 毎年恒例! 糖尿病食事会♪

栄養管理室 深澤恵理

当院では毎年11月に過去1年間に糖尿病教室に参加された患者さんを対象に食事会を開催しています。私は4月から当院に赴任し、集団教室を受け持つのが初めてで、もちろん食事会も初体験。さらに今年は講演会も担当させて頂くことになりました。食事会は献立を考えお弁当として提供し、患者さんたちと一緒に食べます。メニューはさつま芋ごはん、焼き鮭の柚子南蛮、豚ヒレのステーキ、(ごぼうチップス入り)きのこサラダ、炊き合わせ、フルーツ(りんご・柿)。献立は季節感、家ではあまり登場しないメニューでの満足感、減塩でもおいしく食べられるような味付けの工夫、目安量の復習をしてもらうことを念頭に置き、妄想を膨らませて考えました。このお弁当はとても好評で作り方を聞かれるほどでした。今年は例年よりも気温の高い日が続き、

秋らしい景色はまだ感じられなかった分、お弁当で季節を味わって頂けたのではないかと思っています。しかし、1日の必要エネルギー量を1600kcalの設定で提供しているため(お弁当は約500kcal)どうしても主食量の調整が必要な患者さんたちがいます。その患者さんたちが完食…「おいしくて残せなかった」とうれしくもありますが、おいしく食べて血糖コントロールもできる食事会にすべく来年は提供方法を検討したいと思っています。講演は外食の上手な利用法について昔のTV番組どっちの料理ショーのような「カロリー高いどっちでショー」とクイズを取り入れながらお話ししました。食後の講演会だったので眠たそうな患者さんもチラホラ。話題や進め方も集団教室とはまた違う方法をとらなければ反省した1日もありました。



# 平成23年度 感染管理エキスパートナース研修 を開催しました

感染対策室 感染管理認定看護師 岩谷佳代子



昨年度に引き続き第2回目となる感染管理エキスパートナース研修(国立病院機構本部九州ブロック事務所主催)が、平成23年10月25日から28日までの4日間、当院で開催されました。

昨年度は定員数を超える受講希望があり、今年度は定員数を増やし20施設23名の受講生を受け入れました。研修の企画・運営にむけ看護部、教育研修部、管理課、

感染対策室の職員より構成されたプロジェクトチームを立ち上げ、昨年度の経験や課題を基に検討を重ねて準備を行いました。今年度は、グループワークの時間を拡大し、自己の課題に対する情報や悩みを共有し合い、さらに当院の施設見学の実施によってそれぞれの施設の自己評価と具体的な課題を見つけることができたのではないかと考えます。院内外の講師の先生方のご協力に感謝するとともに、施設に戻られた研修生の活動が実を結ぶことを期待いたします。

## 感染管理エキスパートナース研修を受講して

東1病棟 看護師 森久美子



今回の研修は、九州施設内の計23名の受講者が参加し、4日間の日程で行われました。講義では、「感染対策は解らないと実践できない・継続できない」という言葉がとても印象深く、防護具着用や脱衣のタイミングも自分を守るためにものになっていたのではないかと気づくことができました。施設見学の際は、感染対策における

環境が他施設より整っていることを再認識し、スタッフ全員が適切に使用できるような取り組みが必要であると感じました。

今後の課題として、東1病棟では手指衛生の強化と標準予防策の徹底ができるようリンクナースとしての活動を行っていきたいと思います。今回、このような機会をいただき研修の企画をしていただいた皆様に深く感謝いたします。




**嬉野医療センター・外来診療担当医表**

区分	月	火	水	木	金
呼吸器内科	午前	副島 佳文 澤井 豊光	中野 遼文 行徳 宏	澤井 豊光	中野 遼文 行徳 宏
消化器内科	午前	白石 良介(消化管) 大庭 紀子(肝臓) 福田 祥子	副島 誠司(消化管) 有尾 啓介(肝臓) 角川樹子(肝臓・消化管)	福田 浩子(消化管) 西川淑子(肝臓・消化管) 福田 祥子	福田 浩子(消化管) 大庭 紀子(肝臓)
循環器内科	午前	荒木 究 二宮 雄代	室屋 錠吾	二宮 錦代	室屋 錦浩 二宮義代(ベースメーカー)
心臓血管外科	午前	力武 一久 大西 裕幸			力武 一久 大西 裕幸
糖尿病・膠原内科	午前		田中 史子	田中 史子	河部庸次郎
リウマチ科	午前	河部庸次郎		荒武弘一朗	荒武弘一朗
神経内科	午前			瑪田 貴光	瑪田 貴光
腎臓内科	午前		中沢将之(整形で診察)	中沢将之(整形で診察)	
小児科	午前	小野 直康 佐藤 忠司 小野 直康 (診察 14:00 ~ 16:00)	西村 真二 江頭 政和 乳児検診(完全予約制) (診察 14:00 ~ 16:00)	佐藤 忠司 小児神経 第3水曜 (診察 14:00 ~ 16:00) 循環器外来 第1・3水曜 (診察 13:00 ~ 16:00)	西村 真二 西村 真津子 小児神経 第2・金曜 (診察 14:00 ~ 16:00)
	午後			荒木 政人 ①②④	柴崎 信一 ①②④
外科	午前	馬 忠之 ①②④ 馬忠之・吉川虎郎(困難外来) (受付 13時半~15時)(完全予約制)	吉川 克郎 ①②④	荒木 政人 ①②④	柴崎 信一 武岡 喬介 瀬田 聰也 ①②
	午後				
整形外科	午前	村田 雅和 森口 昇 坂井 達弥	小河 賢司 田中 尚洋 井上 拓馬	古市 格 村田 雅和 田中 尚洋	小河 賢司 森口 昇 古市 格 井上 拓馬 坂井 達弥
皮膚科	午前	大仁田亜紀(新患) 大久保佑美(再来)	大久保佑美(新患) 大仁田亜紀(再来)	大仁田亜紀(新患) 大久保佑美(再来)	大仁田亜紀(新患) 大久保佑美(再来)
泌尿器科	午前	谷口 啓輔(再来) 青木 大勇(新患)	谷口 啓輔(新患) 青木 大勇(再来)	谷口 啓輔(新患) 青木 大勇(再来)	谷口 啓輔(再来) 青木 大勇(新患)
	午後		子約外来	子約外来	
婦人科	午前	城 大空 藤原恵美子	藤原恵美子 一類 俊介	一類 俊介 助産師外来(9時~16時) (完全予約制)	一類 俊介 城 大空
	午後	助産師外来(14時~16時) (完全予約制)		助産師外来(14時~16時) (完全予約制)	
眼科	午前	村田和久(予約制)	村田和久(予約制)	村田和久(予約制)	村田和久(予約制)
	午後				
耳鼻咽喉科	午前	吉田 晴郎(再来) 畠地 審輔(新患)	吉田 晴郎(新患) 畠地 審輔(再来)		吉田 晴郎(再来) 畠地 審輔(新患)
	午後			吉田 晴郎・畠地 審輔 (診察 13:00 ~ 16:00)	吉田 晴郎(新患) 畠地 審輔(再来)
放能線科	午前	牧野 謙二 福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二 福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二 福井健一郎 福田 雅敏	牧野 謙二 福井健一郎 福田 雅敏
	午後				
麻酔科 (ペインクリニック)	午前	香月 亮 石川肇佐子	香月 亮 石川肇佐子		香月 亮 石川肇佐子
	午後				
救急科 (8:30 ~ 17:15)		吉田 昌人 藤原 純祐	吉田 昌人 藤原 純祐	吉田 昌人 藤原 純祐	吉田 昌人 藤原 純祐

ご紹介いただく患者様につきましては可能な限り事前予約をおとりいただきますようお願い致します。  
(当院の受付時間は午前 8時 30分~午前 11時 00分迄です。)

内科系 第2・第4木曜日はベースメーカー外来を行っています。  
毎週木曜日の午後(13時~14時)は禁煙外来(保険診療外)を行っています。(受付 14時~16時) ★予約制

毎週月・金曜日の午後は一般外来を受け付けています。(受付 14時~16時)

毎週火曜日の午後は乳児健診(完全予約制) ■ 第1・3水曜日の午後は循環器外来(受付 13時~16時) ★予約制

毎月第3木曜日の午後は内分泌外来(受付 13時~16時まで)

毎月第2木曜日、第3水曜日の午後は小児神経外来(受付 14時~16時まで) ★完全予約制

毎月第4木曜日の午後は小児アレルギー外来(受付 14時~17時まで) ★完全予約制

毎月第2木曜日の午後は小児腎臓外来(受付時間 13時~16時) ★予約制

外外科 ①一般外科②呼吸器外科③消化器外科④乳腺外科 ■ 毎週月曜日の午後は乳腺外来を行っております。(受付時間 13時半~15時)

紹介は整形外来宛でお願いします。救急患者については救急室にて対応しております。

毎週火・木曜日の午後は、検査予約外来を行っています。

毎週水曜日午後は一般外来を受け付けています。(受付時間 13時~16時)

毎月第1・第3木曜日の午前及び毎週水曜日の午後は、婦産外来を行っています。

紹介は月曜日でお願いします。救急の場合にはこの限りではありません。

入院患者さんで歯科診療の必要が生じた時は町内歯科診療所、窓口(宮原歯科医院TEL43-0607)へ往診の依頼を行って下さい。

2011.11.1

**特殊診療のご案内**
**編集後記**

平成23年の漢字一文字は「絆」でした。未曾有の大震災によって、あらためて人と人との繋がりがいかに大切であるかが身にしみる年となりました。

当院では救命救急センター、ヘリポートが完成し11月から運用を始めました。コンセプトは「みんなで支えあう救命救急センター」です。医師、看護師、コメディカル、事務職員等全ての職員が協力し地域型救命救急センターとして新たな歩みを進めていきたいと思います。